

私の履歴書

ふりがな	きむら かずのり	男
氏名	木村 和範	

(1) 中学までは森町

イカめしの森町で1948年に生まれ、中学校卒業までの15年間しか生活しなかったが、遠きありて思う「ふるさと」は「モリマチ」である。高校からは親元を離れて函館に住んだ。地元の高校に入学させたのでは、家業の手伝いで勉強ができなくなるとの親心からであった。古文が好きで、中学が高校の国語教師になりたいと国文科を志望したが、「先生と名の付く職業はどのような職であろうとも就くことは断じて許さない」という父の反対に遭ったこと、3年生のとき政治経済を担当した東郷征二先生が社会への関心を呼び起こしてくれたことなどが重なって、目が奈良平安時代からに現代に向かい、社会科学系を目指すことにした。

(2) 新課程用の数学で合格をゲット

大学入試では1年限りの経過措置として、数学の問題に新課程用と旧課程用の2種類が用意された。新課程用の問題は旧課程にくらべて簡単だった。課程改訂の狭間に運良くラブレで合格することができた。所属学部の割り振りでも、これまた幸いに経済学部定員増初年度に当たり、希望する経済学部に移行することができた。

(3) 弓道が学業か

『統計学』(内海庫一郎・木村太郎・三浦信邦編、有斐閣、1966年)を教科書とする1年目対象の「統計学」は、当時本学経済学部教授であった高岡周夫先生が非常勤講師として担当された。指定教科書の筆頭編者が身近で教鞭をとっておられることを知ったので、講義を聴きに潜り込んだ。講義は変幻自在にして自由闊達。統計学を学びたいというよりは、内海ゼミに入りた一念で、経済学部を選択した。しかし、その思いはどこへやら、ますます弓道にのめり込んだ。就職を控えた4年目になり、このまま卒業してよいのだろうかと思い、内海先生に大学院への進学希望を伝えた。先生は少し困った顔をされたが、受験することになった。志を立てて入学するからには、しっかり勉強するようにと諭されたのは合格した後のことである。

(4) 大学院生活を支えたアルバイト

大学院の5年間は、日本育英会(現日本学生支援機構)の奨学金と札幌南高校での非常勤講師で糊口をしのいだ。進学を目前にした春休みに、教育実習[南高(定時制)]の指導教諭、宮丸吉衛先生から働いてみないかという電話を頂戴した。高校教員の免許を受けてはいるものの、社会科5科目(地理、日本史、世界史、倫理社会、政治経済)となると自信はなかった。しかし、進学後の生活を考えると思案の余地はなく、忸怩たるものを感じつつ、ありがたくお受けした。

(5) お世話になった先生方

1975年に本学経済学部の教員として採用された。この間、担当科目の追加や変更はあったが、来し方を振り返るとき、節目節目でお世話になった先生方のことが思い出される。「オンチ」であった私を1年間ほとんど毎日放課後教室に残して、オルガン弾いて歌を教えてくださいました山口勝子先生(森小学校1年生のときの担任)、3年生になったら担任を山口先生に戻すように西山四郎校長先生に頼んでくださいという作文を寛い心で受け止められた瀬下啓子先生(2年生のときの担任)、職業に貴賤なしと言ってN田T子さんをいじめから守り、分け隔てなく友情をはぐくむことの尊さを教えてくれた辻光子先生(3年から6年までの担任)、新婚前後の時期に何人もの中学生に夜の自宅を無償で学習の場として提供し、指導してくださった相沢玄二先生(森中学校3年間の担任)、社会へと目を開いてくださった東郷征二先生、生活の糧を確保してくださった宮丸吉衛先生、統計学へと誘ってくださった高岡周夫先生、学部移行以来一貫して人として学者としてのあるべき範を垂れた内海庫一郎先生、本学への採用が決まったときに田中修経済学部長と高岡先生へのご挨拶に付き添ってくださった是永純弘先生。——この他にも多くの先生方からさまざまな局面で学恩とご厚誼を賜った。初めてお会いしたときのどの先生の年齢とくらべてみても、はるかにそれを越える年齢に達し、定年退職まであと10年余りとなった。恩師の教員としての「ふるまい」とこれまでの我が身を見比べてみると、まさに汗顔の極みである。遅きに失するとのそりを受けけることは覚悟の上で、改めて教員の社会的使命を反芻しながら、その日が来るまで教壇に立ちたいと願っている。



キャンパス内でゼミ生と

略 歴	
1966年	私立函館ラ・サール高等学校卒業
1970年	北海道大学経済学部卒業
1975年	同大学院経済学研究科経済政策専攻博士課程退学

主 著

『標本調査法の生成と展開』(北海道大学図書刊行会[現北海道大学出版会]、2001年)

現在の研究テーマ

イタリアの統計理論

研究室の窓から

第3回目を迎えたこの企画、今号は小坂直人先生(産業総論)の研究内容を紹介したいと思います。



現在、私は「電気・ガス・水道・熱供給」など、いわゆる「公益事業」の産業特性を明らかにすることを研究課題として取り組んでいる。これら産業は、導線や導管などの供給設備ネットワークを必要とし、その供給する財は産業や家庭にとって必要不可欠なものとなっている。このため、従来、この種の財は自治体や国などの公的機関が直接供給するか、あるいは、民間企業が供給する場合は、公的機関による強い規制を受けることが一般的であった。近年、市場至上主義的な経済政策が主流となる状況において、こうした公益事業分野にあっても、規制緩和・自由化が強力に推進されてきている。したがって、現在の私の主要な関心は、一般の産業と明らかに異なるこれら公益事業を一般産業と同様に扱うことになる自由化措置の是非を検討することにある。

この検討過程において留意すべき点がいくつかある。

第1に、「官」あるいは「公的機関」の位置づけである。

市場至上主義によれば、市場における経済活動に対して国家政府はできるだけ介入しないことが理想とされ、「小さな政府」が最良と考えられている。膨大な国債累積に象徴される「財政危機」もあって、公務員定数の削減や給与引き下げが当然のごとく実行されようとしている。汚職や天下り問題など、日本の官僚制度の弊害は少なくない。したがって、その改革が必要なことは当然であるが、現政府のやり方は稚拙に過ぎる。たとえば、「耐震偽装問題」は構造計算書に直接関わった—建築士の資質だけの問題ではなく、建築基準法という国民の財産と安全を守るための最低限のルールを誰が最終的な責任を持って適用・監視するか、という社会制度の問題である。この問題の教訓は、本来、公的機関で行なうべきチェックを民間機関に委託する場合、民間機関の業務内容を公的機関が改めて監視するシステムが必要だという点にある。それゆえ、「公的機関」が最終責任を持つべき業務は委託すべきではなく、直接監視責任を持つシステムをつくるべきであろう。そうでなければ、監視システムの二重化が避けられないからである。同じ目的のために、民間と官の双方に類似の機関が構築されるのは社会的な無駄と言える。

官・公的機関＝悪玉、市場・民間＝善玉という構図は単純明快で分かりやすいが、その分、きり捨てられる部分が多いことに留意すべきなのである。とりわけ、そのことによって、官・公的機関が本来担うべき分野においても、官・公的機関の総退却が始まろうとし

ていることが懸念される。地域の図書館、美術館、博物館、劇場ホール等の文化施設の運営に当たって「指定管理者制度」による民間委託が強力に推し進められているが、その背後にこれら文化施設に対する無理解、それゆえ貧困な文化政策が存在することを見ることは容易であろう。

第2に、「公共性」の問題である。

ここ数年、社会人文科学の分野では公共性研究が非常に盛んである。それ自体は歓迎すべきことではあるが、その中身に気にかかる点がある。かつての日本で、公共性と言えば、国家・政府の有所する「公的」なものの総称とも言うべき性質を指していると考えられてきた。すなわち、「お上の公共性」である。官・公的機関＝悪玉という図式も手伝ってか、この意味での公共性を主張する者は少なくなったようである。今日の主要な公共性理解は、官・公的機関と民間の間に、「公」でも「私」でもない「公共空間」が存在するというものに収斂しつつあるように思われる。もちろん、そこでのニュアンスや強調点は論者によって微妙に異なっており、定説らしきものはまだ存在しない。しかし、一面的な官・公的機関による「公」や、ひたすら私利私欲を追い求める「私」とは区別される空間に公共を位置づけようとしている点では、共通のフレームが形成されつつあるように思われる。

第3に、公共が以上のようなフレームで展開可能だとして、私の研究対象である公益事業はこのフレームにどのように位置づけが可能であろうか。

最初に述べた、公益事業を自由化することの是非を検討するという私の現時点の関心事は、このフレーム上の中心に公益事業が位置付けられるのではないか、という仮説の検証につながっている。この作業は、まだ開始したばかりであり、いつ終わるとも言えない先の長い取り組みではある。ただ、少なくとも現時点で次の点は言えるように思う。「企業価値の増強、すなわち投資家にとっての収益の増大の場が公共空間である」という田中直毅の公共性には私は与しない。公共性はあくまでも地域共同の場におけるマイノリティの利益に収斂するものでなければならないというのが私の主張の要点である。

研究生活の残された期間、ゼミや授業、学会など与えられた場において上記課題達成のため最大限努力したいと願っている。

econ. (エコノ) No.13 発行：北海学園大学経済学部 2006・春
〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40 TEL.011-841-1161(代) FAX.011-824-7729
HP.http://www.econ.hokkai-s-u.ac.jp e-mail:admin-ec@econ.hokkai-s-u.ac.jp



北海学園大学経済学部報 エコノ No.13

私の大学4年間

この春卒業を迎えた経済学部生2名に、大学生生活4年間でふりかえってもらいました。2005年度卒業生の皆さん、どんな4年間を過ごしたでしょうか？ 2006年度新入生の皆さん、不安も多いと思いますが、先輩の経験を大いに参考にし、充実した学生生活を送ってください！



経済学部経済学科

本間 史乃

1年目

念願の大学に入り充実した大学生活を送るためにサークルに入ろうと思った私は、サークルPR大会で説明してくれた先輩のやさしさと姿勢に惹かれて、弓道部に入部しました。弓道部はなにもかも新鮮で、たくさんの仲間ができ、とても楽しい毎日でした。もちろん上関係の厳しさと練習のつらさ、朝練による午後の授業中の眠気に悩みましたし、上達の遅さが悔しく弱気にもなりましたが、はじめて矢が的に当たったときは、そんなつらさを忘れるくらい嬉しかったです。他大学との交流試合もよい経験でした。

1年の後期になると先輩から、弓道部とは別に体育会本部の仕事をするめられ、活動の場がより広がることと思い、体育会本部に入りました。

授業では1年次には専門科目が少ないため、中国語やコミュニケーション論など共通科目を多く履修しました。とうじ開講されていた「経済学概論」ではグループごとに発表するなどして経済の基礎的知識が身についたと思います。

[1年次の修得単位：48単位]

2年目

2年生になると、まずゼミ選択がありました。日韓共催のサッカーWカップで韓国に興味をもった私は、韓国の歴史や社会を知らないことに気づき、韓国社会経済論のゼミをとることにしました。ゼミで学んだのは韓国や北朝鮮の歴史や日本との関係など、それまで知らなかったことばかりで、表面的でなく深い理解が得られたと思います。またゼミと並行して韓国語も教えていただき、楽しかったです。

ゼミや体育会本部の活動にくわえて、もともと目指していた公務員の勉強力を入れるために、悩んだ末に弓道部は前期でやめることにしました。つらい決断でしたが、不器用な自分がほんとうにやるべきことは何かを重視した結果です。つらい時期をささえてくれた仲間にはいまでも感謝しています。公務員対策は早めに取りくんだほうがよいと思い、学内の公務員講座を受講しました。

[2年次の修得単位：48単位]

3年目

3年次のゼミは3年生と新2年生との合同になりましたが、人数が多いせいが多様な意見が生まれ、より活発なゼミになったと感じました。経ゼミ対抗のソフトボール大会に向けた練習や、大会での一喜一憂も、楽しい思い出になりました。

体育会本部では渉外次長になり、仕事も増えました。渉外は毎月の体育館や体育棟施設の使用割当などを決めるのですが、会議が3時間におよぶこともあり、それをでも自分なりに効率のよい方法を考え、各部と連携し、徐々に会議を円滑にすめられるようになりました。この経験のおかげで仕事の処理能力や物事の調整能力が身についたようにも思います。さらに自治会執行部や文化協議会本部など他団体の方々と接する機会もあり、たいへんでしたが多くの経験ができたと思います。

公務員勉強は、6月から公務員予備校の休日コースを受け、平日は図書館で勉強しました。自宅であまり集中できない私も、同じ公務員志望の人がいる図書館や予備校ではよい刺激が得られ、勉強に打ちこめました。

[3年次の修得単位：48単位]

4年目

卒業に必要な単位は3年間でとれたので、4年生のときは公務員試験に全力投球しました。いっぽう体育会本部では、より責任ある副幹事長になりました。またこの年は、毎年開催される対東北学院大学定期戦の主幹の年でもあり、その準備で大忙しでした。

しかし公務員試験は、5月6月7月といくつもの試験を受けたものの、すべて不合格。夏ごろには公務員浪人も考えましたが、まだ9月に市町村と郵政職員の試験があったので、悔いの残らないように、この2つの試験に全力を傾けよう決心しました。

そして11月、郵政公社から念願の合格通知が来ました。一時はもうだめか思っていたぶん喜びもひとしおで、あきらめずに努力してほんとうによかったと思いました。いままで支えてきてくれたたくさんの方々への感謝の気持ちでいっぱいでした。

[4年次の修得単位：0]

4月からは私も社会人としてあらたなステージが上がります。この大学で過ごした4年間のさまざまな出来事や思いは、これからの生活でも大きな力になることでしょう。今後とも、なにこともあきらめないチャレンジ精神で、自分が納得のゆくまで精一杯努力してゆきたいと思います。

